

進路指導室から 第368号

はじめに

桜が満開の季節を迎えています。寒く感じる日が多かったため、桜の開花は遅れているように思っていましたが、それでも広島は例年よりも早い開花だそうです。

さて、4月から、いくつかの制度変更がありました。医療面では、「不妊治療の保険適用拡大」「オンライン診療の恒久化」、労働面では、「改正育児・介護休業法の段階的施行（男性版育休の導入など）、福祉面では、「年金の受給開始年齢の75歳まで拡大」、環境面では、「プラスチックごみ削減の義務化」があげられます。

また、約140年ぶりに民法の成年の定義が見直され成年年齢が、現行の20歳から18歳に引き下げられます。それにもない、婚姻ができる年齢も変わり両性とも18歳に統一されます。また、成年年齢は民法以外の多くの法律の年齢要件の根拠となってきましたが、成年に達していることを要件としていた資格取得のうち、医師や公認会計士、司法書士などについては18歳で就くことが可能になりました。そして、ローンを組んだり、クレジットカードを作るなど親の同意を得なくても、自分の意思で様々な契約が出来るようになります。未成年者が親の同意を得ずに契約した場合には、民法で定められた「未成年者取消権」によって、その契約を取り消すことができますが、成年に達すると未成年者取消権は行使できなくなります。大人の仲間入りをする若者が増えることで社会に活力が生まれると期待される一方、契約にともなうトラブルに巻き込まれてしまう懸念も指摘されています。いずれにしても、高校生に該当する年齢において生まれ月によって成年者と未成年者が混在することになるようです。



「令和7年度大学入学者選抜大学入学共通テストの東京大学における利用教科・科目の予告」について

東京大学は3月26日（土）に、「令和7年度大学入学者選抜大学入学共通テストの東京大学における利用教科・科目の予告」を公表しています。利用教科・科目については以下のとおりです。

教科	科目
国語	『国語』
地理歴史	『歴史総合, 日本史研究』、『歴史総合, 世界史研究』、『地理総合, 地理研究』、
公民	『公共, 倫理』、『公共, 政治・経済』、
数学	グループ① : 『数学Ⅰ, 数学A』 グループ② : 『数学Ⅱ, 数学B』
理科	『物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎』 『物理』、『化学』、『生物』、『地学』
外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』
情報	『情報Ⅰ』

なお、文科及び理科の各科類の受験を要する教科・科目選択の方法等については、令和4年度中に改めて公表される予定です。今後の他大学の公表にも注意をする必要があります。

「全校集会での講話」について

4月6日（水）に行われた前期始業式後の全校集会での講話の中で、以下のような話をさせていただきました。

いつの間に桜の季節となりました。今日が始業式です。そして、明日は入学式が行われ、76回生の新入生を迎えます。いよいよ新年度が始まります。

今日は2つのことを話します。

1つ目の内容は、『3人のレンガ職人』の話です。

この話は、『イソップ寓話』の一つと言われています。『イソップ寓話』は、アイソーポス（イソップ）が今から約2500年前に作ったとされる寓話を集めたとされる寓話集です。「アリとキリギリス」、「ウサギとカメ」、「オオカミ少年」などがよく知られています。ただし、イソップ寓話ではないという説もありますが、真偽のほどはわかりません。

「3人のレンガ職人」は、こんなお話です。

旅人が道を歩いていると、レンガを積んでいる3人の職人に出会い、「ここで何をしているのですか？」と尋ねます。

1人目は「レンガを積んでいるのさ」と答え、辛くて不公平だと考えていました。

2人目は「大きな壁を作っているのさ」と答え、家族を養うために仕事があることに感謝していました。

3人目は「100年後の歴史に残る偉大な教会を作っているのさ」と答え、教会の完成をイメージし、そこに訪れる人々の幸せまで考えていました。

3人がやっている仕事は一緒ですが、何かが違いますね。では、何が違うのでしょうか。考えてみてください。

それは、「志」です。1人目は言われたからやっているだけで、2人目は食べるために否応なしに働いていて、2人とも目の前の壁の部分しか見ていません。けれども3人目は、歴史的な事業に参加して多くの人を喜ばせたいという志をもって仕事をしています。しかも、自分が完成を見届けることのできない100年先を見据えて仕事に取り組んでいます。

ところで、「志」という漢字の成り立ちを調べてみました。「志」は、大きく2つの部分に分けることができます。1つが、漢字上部の「士」、(武士の「士」で使われている漢字)です。そして漢字下部の「心」です。「士」はもともと「之」の字が当てられていて、「行く」の意味がありました。そして、「士(之)」と「心」を組み合わせることで「心が行く」、つまり、「心が突き動かされる」と変化し、「志」の漢字ができました。この「志」という漢字は、自分の気持ちが向かうところ、つまり「心の内から湧き上がる強い気持ち」を表現した漢字といえます。

基町高校の進路指導で大切にしていることは、皆さんの「高い志」の形成への支援です。ところで、皆さんは「志」をもって学校生活を送っていますか。

なお、「3人のレンガ職人」の話はそれから10年後のお話があります。3人とも相変わらずレンガを積んでいます。

1人目は、文句を言いながらレンガを積んでいました。2人目は、賃金は高いけど危険の伴う屋根の上で仕事をしていました。そして3人目は、現場監督として多くの職人を育て、出来上がった大聖堂には彼の名前がつけられました。

2つ目の内容は、徳島県のある花屋さんの話です。その花屋さんは、ネットでたくさんの注文が入ることで全国的にも注目されていました。

そこで、関心をもった週刊誌の記者が、なぜ、そんなに注文が入るのか疑問に思い取材を申し入れたところ、「いや、なぜ売れているのか、私たちにもさっぱり分からないんです」との返答だったそうです。でも、記者はその疑問を明らかにしたいと考え、何とか許可を得て、取材を受けてもらいました。

以下は、記者とお店の担当者とのやり取りです。

1つ目の質問です。「まず、箱から取り出せば、花瓶要らずで、そのまま自立するのが、とても便利です。そこで、これは、このお店だけが誇る特徴ですか。」

それに対して担当者は、「いえ、よその店でも出しているようです。」と返答したそうです。

2番目の質問です。「水も栄養剤も全く不要で、これは、この店だけの花束ですか。」

それに対して担当者は、「いえいえ、ほかの花屋でもありますよ。」と返答したそうです。

3番目の質問です。「現物を発送する直前に、画像に収めて注文してくれた人にメールするというサービスは、このお店だからこそこのサービスですか。」

それに対して担当者は、「あの、それも多くあります。」と返答したそうです。

4つ目の質問です。「午後3時までには注文すれば、このお店はその日のうちに発送してくれます。これこそ、このお店ならではのサービスですか。」

それに対して担当者は、「それこそ他店が先んじていました。」と返答したそうです。

そこで、記者は、「なんでこんなに売れているのですかね。」と改めて聞いたそうです。

「だから、さっぱり見当がつかない。」

でも、記者は、この時点で気づいたそうです。

皆さんはわかりましたか。最後の質問です。

「この4つの特徴をすべて備えている商品は、どれくらい存在しますか。」

その時、担当者が「ああっ！」と声を上げたそうです。「確かにそれは、ほとんどないかも。」と気づかれたそうです。

なぜ、売れるのか。それは当たり前のこと全てを愚直に続けていたからです。

73回生の中に、驚くほど成績を伸ばした生徒がいます。何か特別なことをやっていたのだろうかと思い、勉強の仕方を尋ねたところ返ってきた答えは、本当にあっさりしたものでした。

「先生がやりなさいと言われたことだけをやっていました。」

先の花屋の話では、4つの特徴すべて揃っていたことが、他の花屋との違いでした。

年度当初にあたり、当たり前と思えることを4つ考えてみてください。そして、この1年間、続けてみてください。続けることが、みなさんの「志」の実現につながるのではないかと思います。

終わりに

先日、本校69回生の卒業生と話す機会がありました。彼らもいつの間にか22歳になり、この春、社会人になります。話しを聞くなかで、新たな世界へ飛び込むことの期待と不安が感じられました。それでも、彼らには時間がある。羨ましく思います。
(文責：進路指導部 池本 邦彦)